

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 076	提案機関名 湘南地域県政総合センター
要望問題名 エリートツリー(ヒノキ)の研究開発	
<p><b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】</p> <p>新規事業で「持続可能な林業の構築に向けた取組」として無花粉スギについて「エリートツリーの研究開発」を進めるが、ヒノキについても進めていただきたい。</p> <p>林野庁では、森林整備に当たっては、低コスト化に取組むように方針が掲げられ、</p> <p>① 一貫作業の取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・主伐時の林業機械の活用を広げる取組</li><li>・主伐事業者や植林事業者の連携のための具体的取組 など</li></ul> <p>② 低密度植栽の取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・低密度植栽の基準本数の設定 など</li></ul> <p>③ 下刈り省力化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・エリートツリーの活用の進め方</li><li>・下刈り回数削減の推進方策</li><li>・坪刈りや筋刈りの推進方策 など</li></ul> <p>が挙げられている。</p> <p>県内の森林管理は、その多くが森林所有者と受委託契約を締結した森林組合等の担い手が行い、近年は更新も行われてきている。その際、ヒノキを希望する森林所有者が多いと聞いており、適地適木で山づくりを進めるのはもちろんだが、スギよりもヒノキのほうが、需要があるのは明白である。</p> <p>造林補助事業では上記取組について優先的に予算配分がなされるときいている。水源の森林づくり事業の最終期に入り、県が発注する森林整備事業量が今後減っていくなかでは、造林補助事業の活用が重要になることから、ヒノキについても対応していただくようお願いしたい。</p> <p>(本県の現状から、林野庁が進める低コスト化の取組のうち、実現可能性という視点で考えると、</p> <p>① 主伐時に効率よく林業機械を活用できる現場は多くない。</p> <p>② 森林所有者の意向から低密度は好まれず、多様な木材生産を目指して、密植を希望するところもある。</p> <p>③ 坪刈りや筋刈りより、全刈りで行ったほうが効率よい。</p> <p>しかし、「エリートツリーの活用」は取組みによる効果を望めるのではないか。</p> <p>従って、エリートツリーの育成について重点的に検討したほうが良いと思う。)</p>	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内      ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター   ②畜産技術センター   ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 特定林木育種事業 等		
対応の内容等	<p>ヒノキのエリートツリーの研究開発についてご提案いただきありがとうございます。県では、「神奈川県花粉発生源対策10か年計画」にもとづき、ヒノキについても少花粉スギ及び全国に先駆けて選抜した無花粉ヒノキに転換を図ったところ。スギについては、無花粉スギで相当な成長を見込める林分があり、そこからエリートツリーとなる無花粉スギ選抜を進めているところ。一方ヒノキについても成長性についてはスギよりも劣るため、その低コスト化を進めるには成長性の改良が重要であると認識しております。一方で花粉対策でかつエリートツリーであるヒノキを選抜するには、少花粉品種による交配家系を育成し検定林を造成する必要があり、20年以上の年月が必要になります。そのため、少花粉品種でエリートツリーとなる品種開発を国研究機関等に要望しているところであり、花粉対策の閣僚会議の開催等もあり9月の林野庁での会議で実施する旨回答が得られています。神奈川県単独で各種研究課題を実施することは困難であると考えられるため、国研究機関の対応により選抜が行なわれれば、採種園を整備し供給体制を整備したいと考えます。</p> <p>なお当県では両性不稔ヒノキ「丹沢 森のミライ」は種子ができないため成長性の改良が出来ないことから、交配により生産可能な雄性不稔の無花粉ヒノキの選抜に注力しており、選抜が出来れば、無花粉品種の交配による改良も可能になると考えられます。</p>		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			